	令	和6年原	隻長:	久手市行政	女評価	碟(A票:事第	美評価票	<u>(</u>)		対象年度			令和5年度		
					В	 型山保全管理活用	B 車業			担当課			みどりの推進説	₹	
事業番号	61	事業	《名	=	三川休土自垤泊户	 事表			予算区分(款-項-目-中事	業)	5-1-5-6 里山保全管理活用事業				
				(大事	業名)	緑化振興事業				決算書ページ		16	67 ~	一般	
	総	基本目標	3	みんなで未み	そへつな	ぐ 緑はまちの宝物	事業開始の手入れや			や管理が行き届かず放置された山林において されている。そのためこれらの山林を適切に	は、廃棄物	物の不法技	受棄、倒木に伴う周辺への損害等間	同辺地域への悪影響 されば第一年のに生	
	合計	政策	1	万博理念	を継承	した自然との共生	背景	<u>.</u>		されている。そのためこれらの山林を適切に ることが求められている。	官理でされ	る江祖ので	を登え、里山を休主・冶用し、巾具	の状態、女主に主	
	圖	施策	(1)	豊かな	自然環境	竟の保全・活用	市国	見・見	間事業	業者との連携協働の可能性		民間事業者とのみ協	動可		
		開始年	度		平成2	7年度									
	その	終了予定	年度			年度 🗹 未定									
	の他	根拠法令	等	無し											
	ַט	関連計	画	長久手市里山	プラン	、長久手市里山基本計	りの推	進計画	計画、緑の基本計画						
				アウトプ	ット(詳細はⅡへ)		アウトカム (詳細は皿へ)							
基本		①事業概要 (どんな取組を行うの)				②活動指標 (取組の進捗をはかるもの。 また、それがどうなるのか)				③中間成果 (①【対象】がどのような 状態に変わるのか)		④最終成果 (大事業の将来像)			
基本情報		山地区周辺 い、地域資	女: 学】 ・	□ 事業者 □ その他 60,000 中心整備里 してり組みま 取り組みま	••••	長久手市里山基本計 協働プロジェクトの づいたイベントを、 や近隣大学との協働! 催した結果、団体の 味を持つ市民が増え、 体の構成者数が増え、	内容に基 地元団体 こより開 舌動に興 活動団		(成	保全事業イベントの参加 が増加 果指標名) 保全事業イベントの参加		共	里山プランに位置づ地区が市民が高まない。 地区が市民が見するこいを発見するになり、で行っなりでである。 でではなびで、ではないではでいるができる。 ではないではでは、ではいながでは、 では、これでは、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	もち楽る で山」』の 里山林の 主的にイ	

			活動指標名	単位	基準値(2018年) 目標値(2023年) ※AP指標のみ		区分	R5(2023) 年度	R6(2024) 年度	R7(2025) 年度	R8(2026) 年度	R9(2027) 年度		
			【その他指標】		基準値	_	見込	5	5	6	6	6		
		1	地元団体及び近隣大学との協働により開催した		目標値	_	実績	5						
			イベント回数											
	汗	2	【アクションプラン事業】		基準値	7,000m²	見込	8,000		_		ı		
	活動指標		里山整備面積(累計)	m [*]	目標値	8,000m²	実績	7,000	1	_	-	1		
П			主山金州山慎(糸司)											
汗			【その他指標】		基準値	0.35ha	見込	_	0.45	0.55	0.65	0.70		
活動状		3	里山保全活動実施面積(累計)	ha	目標値	0.70ha	実績	_						
状			主山床土石勤夫加曲慎(茶司)											
況			【その他指標】		基準値	_	見込	27	29	31	33	35		
7		4	里山保全活動を行っている	人	目標値	_	実績	28						
ウ			団体の構成人数											
トプ		事業	開始からの経緯											
ツ														
 		平成31年3月に策定した「長久手市里山基本計画」に基づき、市民主体での適切な里山保全・活用が図られることを目的としている。まずは、阝												

|心のある市民を増やすことで、組織化に繋げていきたいと考えている。 令和4度度については、 プレーバークについて興味のある人材の発掘がで き、試行を実施することとなった。

R5(2023)年度の取組、改善したこと。目標が達成できなかった場合はその理由

・活動指標1

詳

ピ ソ

> イベントの内訳としては、里山保全と燻製づくりイベント【地元団体協働】(16人)、里山散策会【地元団体協働】(14人)、里山講演会計2回【地元団体協働】(延べ23人)、七 |夕祭り【近隣大学及び地元団体協働】(18人)、プレーパークの試行3回(33人+96人+39人=168人)。七夕祭りについては、愛知学院大学からのイベント提案を受け、里 山クラブがサポートし実施した。協力してくれたお礼として学生からは、里山クラブの取り組みの手伝いも可能な範囲で手伝うとの申し出もあった。 ・活動指標2

前期アクションプランは里山整備面積を指標としており、基準値である7,000㎡(地権者と無償借地の協定締結済みエリア)を増やしていく指標となっていた。しかしながら、この 7,000㎡内においても地権者の都合により整備が進んでいない現状もあるため、これを増やしていく指標は現津的では無いと判断し、後期アクションプランの指標としては、7,000㎡の 中で実際に作業が出来ている3,500㎡を基準値とし、これを7,000㎡まで広げていく方針とした。

			成果	指標名(中間成	以果をはか	るもの)) 単位 成果指標の推移と目標															
	成			山保全事業イベ	ごろんの会	÷カロ ↓ 米ケ		人	- 年	度	$oxed{\Box}$	4 年度		【現状】	5	年度		7	7 年月	ŧ	- 年度	
	果指標			四体土 事未 1 / ·	ヘンドの参	>加入致			_			186			239				258		_	
	標					成果達成	状況									指標目	標値	の	根拠			
Ш	(C H	A. 想定より良い B. 想定どおり C. どちらともいえない D. 想定を下回っている																				
車	E	評価の理由、分析													R4年度実績として、8イベントで186人の参加があり、1イベント当たり24人となる。毎年1イベントづつ増やしてい							
事業の成果	CK)	令和5年度の目標が210人に対し、239人の市民参加があった。今後も継続して市民参加を促し、里山保全の意識高揚を図っていく。																				
•		今後	後の方	向性(3年~5		今後の方向性の理由																
課題分析	加え	B A.現状維持 B.拡充 東山地区の木望の森について、自由に出入りが出来る場所では無く、十分な活用がされていない状況であるた 用方針を見いだす必要がある。 C.縮小 D.廃止												うるた <i>め</i>)、新たな活							
析 (ア		(成	改善ポイント ※今後の方向性がAの場合は記入不要 (成果指標を踏まえ、総合計画基本目標達成のため、必要性、有効性、効率性、公平性、歳入確保の観点等から見直しの余地のある取組を記入)														記入)					
ウト	んる変化	Ę	直し	,の余地のある耶	取組名	見直しの 方向性				理	!由.7	及び具体	的な	見直し0)内容						見直し 可能年度	
カムの詳細	. (A C T T	1		保全事業委託 星の森エリア)		□ 拡充 改善 届 旅市 展止	事業を隣接している平成こども塾へ事業を移し、平成こども塾のプレーパーク事業と統合し、プログラムで活用することが望ましいと考える。ながくて里山クラブが整備を行った木望の森について、子ども達が入り、活用することで市内市民や子ども達が里山に触れ、学ぶ機会が増える。また、ながくて里山クラブにいても、整備を行った場所が利活用されることで活動の活性化に繋がると考える。									が立ち	R 7					
細)	0 N	2				□ 拡充 改善 届 旅市 展止																
		3				□ 拡充 改善 届 旅小 原止																

		R	年度の費用(R	6年度比)		(単位:千円)	R6(2024)年度	R5(20	123)年度	R4(202	2)年度					
		_	A.現状維持	B. 拡充			事業費	予算	予算	決算	予算	決算					
		Α	C.縮小	D. 廃止			尹未貝										
			理由				合計額										
						特	(内 国費)										
						特定財	(内 県費)										
		事業移管	のため			源	(内 諸収入)										
							(内 その他)										
	令和						一般財源										
	1 7	積算額				R6年度予算の内訳 <細々節名、 予算額、 (R5年度予算額) >											
Ⅳ費用	令和7年度予算の方向性(PLAN)				3年間の推移												